

I 遺跡の概況

新石器時代無土器文化期(第二期)の遺跡は、必ずといっていいほど河口や湧水のある海岸低地の砂丘地(カニク地)にあり明瞭な貝塚を形成している。この貝塚では、貝層中から土器が全く確認されない。新石器時代の無土器文化といわれている。無土器時代の貝塚からは、土器に代わって調理に用いられた砂岩の扁平な破片が火を受けて赤く焼けた状態で沢山発見される。

また、石斧は刃部から胴部にかけて研磨した半磨製石斧が主であるが、豊富な石材を用い、赤色土器時代のものとは比べると、石斧の製作技術(研磨技法)は一段と進歩し、石斧の両面を広く磨き、研磨面積は大幅に増加している。カヌーの製作に用いられた可能性のあるシャコガイ製貝斧や柱状ノミ型磨製石斧、船のイカリ石だと思われる超大型の石錘なども出土している。今のところ石垣島に二五カ所、西表島に一二カ所、小浜島に三カ所、波照間島一カ所、竹富島一カ所、鳩間島一カ所、与那国島一カ所、隣の宮古島から四カ所発見されている。

これら無土器時代の遺跡は、遺跡の範囲の大小や層の厚さ、共伴遺物

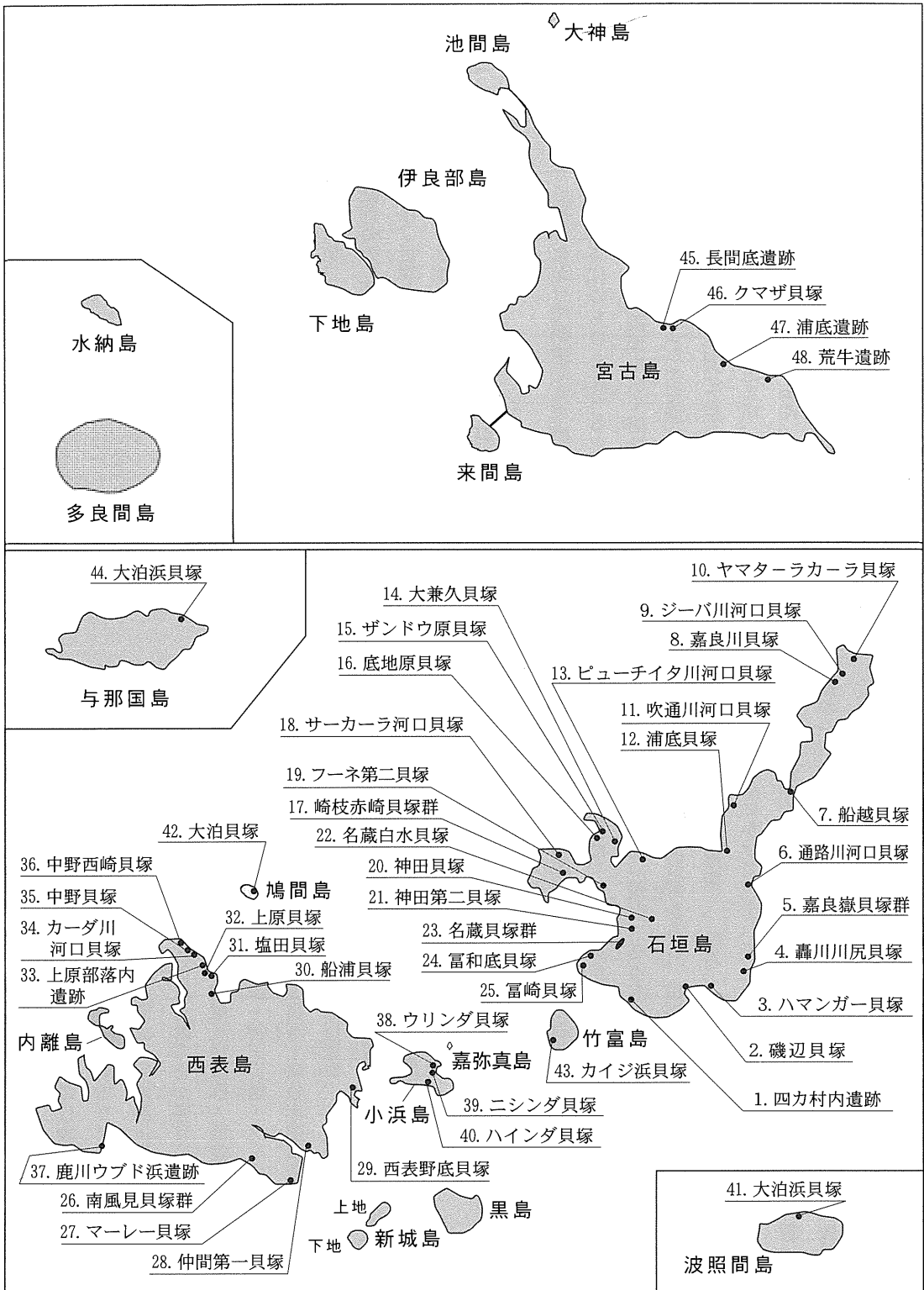
においても若干の違いが見られる。そのなかの代表的な遺跡には、西表島の仲間第一貝塚・船浦貝塚・上原貝塚・鹿川ウブド浜遺跡、石垣島の名蔵貝塚群・崎枝赤崎貝塚群、波照間島の大泊浜貝塚、小浜島のウリンド貝塚、宮古島の長間底遺跡・浦底遺跡などが挙げられる。

また、西表島の仲間第一貝塚^(1,2,3)・南風見貝塚群⁽⁴⁾・西表野底貝塚⁽⁵⁾・船浦貝塚⁽⁶⁾・上原貝塚⁽⁷⁾・石垣島の名蔵貝塚群^(8,9)・神田貝塚^(10,11)・フーネ第二貝塚⁽¹²⁾・船越貝塚⁽¹³⁾・吹通川河口貝塚⁽¹⁴⁾・ザンドウ原貝塚⁽¹⁵⁾・崎枝赤崎貝塚群⁽¹⁶⁾・仲筋ビユーチイタ川河口貝塚⁽¹⁷⁾・富崎貝塚⁽¹⁸⁾・嘉良嶽貝塚群^(19,20)・波照間島の大泊浜貝塚⁽²¹⁾・竹富島のカイジ浜貝塚⁽²²⁾、鳩間島の大泊貝塚⁽²³⁾、宮古島の長間底遺跡⁽²⁴⁾・浦底遺跡⁽²⁵⁾などにおいては、試掘調査、遺跡の範囲確認調査、または発掘調査が行なわれた。

これら無土器時代の遺跡の報告書によると、西表島の東部の仲間第一貝塚⁽²⁶⁾からは石器以外のものは発見されなかった。打製石斧三点、半磨製石斧一点、磨製石斧四点、未製品石斧一点、敲石五点、砥石などが出土している。また、多和田真淳氏の試掘調査の際、七二センチメートルの包含層から鉄器(船釘)なども出土している。

西表島西部の船浦貝塚⁽²⁷⁾からは、貝製品(貝の裝飾品)や豊富な石斧(打製・局部磨製・磨製)、敲石、凹石、ノミに似た鉄器が第II層から第III層の上部にかけて出土している。

石垣島西海岸の名蔵貝塚群⁽²⁸⁾からは、打製・局部磨製・半磨製・磨製石斧が一六点、たたき石、有孔石製品(イカリ石)、シャコ貝製貝斧四点(未完製品三点)、スイジガイ製利器五点、有孔貝製品(シャコガイ製



地図1 先島文化圏（宮古・八重山）の無土器時代（先史時代第二期）の遺跡分布図

表1 先島文化圏における無土器時代（第二期）の出土遺物一覧表

出土遺物名		調査有無	破壊状況	石斧		貝器		骨製品	備考	出土遺物名		調査有無	破壊状況	石斧		貝器		骨製品	備考						
遺跡名				打部	局磨製	半磨製	磨製			貝器	貝器			遺跡名		打部	局磨製			半磨製	磨製	貝器	貝器		
1	石垣島 四カ村内遺跡	無	★	☆	☆	☆	●	●	●	25	富崎貝塚	有	★	☆	☆	●	●	●	●	●	試掘				
2	磯辺貝塚	無	★	●	●	●	●	1	●	●	26	西表島 南風見貝塚群	有	■	●	1	●	●	1	●	●	発掘			
3	ハマンガール貝塚	無	●	●	●	●	●	●	●	27	マーレー貝塚	無	■	●	●	●	1	●	●	●	●				
4	轟川尻貝塚	無	★	●	●	●	●	●	●	28	仲間第一貝塚	有		○	○	○	○	☆	1	☆	●	報書			
5	嘉良嶽貝塚群	有	★	☆	☆	☆	☆	1	●	1	●	報書	29	西表野底貝塚	有	●	●	●	1	●	●	●	●	試掘	
6	通路川河口貝塚	無	★	●	●	●	●	●	●	●	30	船浦貝塚	有		○	○	○	○	○	1	☆	●	報書		
7	船越貝塚	有	★	☆	☆	☆	☆	☆	1	●	●	報書	31	塩田貝塚	無	★	●	●	●	●	●	●	●		
8	嘉良川貝塚	無	●	●	●	●	●	●	●	●	32	上原貝塚	有	★	○	○	○	○	☆	☆	☆	●	発掘		
9	ジーバ川河口貝塚	無	★	●	☆	●	●	●	●	●	33	上原部落内遺跡	無	★	●	●	●	●	☆	●	●	●			
10	ヤマターラカラ貝塚	無	★	●	●	●	●	1	●	●	34	カーダ川河口貝塚	無	★	●	●	●	●	●	1	●	●			
11	吹通川河口貝塚	有	■	☆	☆	☆	☆	1	☆	1	●	概報	35	中野貝塚	無	★	●	●	●	●	1	●	●		
12	浦底貝塚	無	●	●	●	●	●	●	●	●	36	中野西崎貝塚	無	★	☆	☆	☆	☆	○	1	●	●			
13	ピューティタ川 河口貝塚	有	★	☆	☆	☆	☆	☆	1	●	●	発掘	37	鹿川ウブド浜遺跡	無		○	○	○	○	●	●	●		
14	大兼久貝塚	無	★	●	●	●	☆	●	●	●	38	小浜島ウリング貝塚	無		○	○	○	○	2	☆	●	●			
15	ザンドウ原貝塚	有	★	☆	☆	1	1	●	1	●	●	発掘	39	ニシング貝塚	無	●	●	●	●	1	●	●	●		
16	底地原貝塚	無	★	●	●	●	●	●	●	●	40	ハインダ貝塚	無	●	●	●	●	●	●	●	●	●			
17	崎枝赤崎貝塚群	有		○	○	○	○	☆	☆	☆	●	報書	41	波照間島大泊浜貝塚	有	●	6	●	●	☆	☆	1	報書		
18	サーカーラ河口貝塚	無	★	●	1	●	●	●	●	1	42	鳩間島大泊貝塚	有	1	●	●	1	●	●	●	●	●	発掘		
19	フーネ第二貝塚	有	●	1	●	●	●	●	●	●	●	試掘	43	竹富島カイジ浜貝塚	有	●	2	●	●	●	●	●	●	●	報書
20	名蔵神田貝塚	有	■	☆	☆	☆	●	●	●	●	●	報書	44	与那国島大泊浜貝塚	無	●	●	●	●	●	●	●	●		
21	名蔵神田第二貝塚	無	★	●	●	●	●	●	●	●	45	宮古島 長間底遺跡	有	●	5	2	2	1	4	●	6	報書			
22	名蔵白水貝塚	無	★	●	●	●	●	●	●	●	46	クマザ貝塚	無	●	●	●	●	☆	●	●	●				
23	名蔵貝塚群	有	■	○	○	○	○	○	○	☆	●	報書	47	浦底遺跡	有	●	☆	☆	○	☆	☆	☆	☆	概報	
24	富和底貝塚	無	■	●	1	●	●	●	●	●	48	荒牛遺跡	無	●	●	●	●	●	☆	●	●				

1. 遺跡の破壊状況：大部分→■、消滅→★ 2. 遺物の出土量：数十点→○、2～3点→☆、不明→●

品・サルボウ等製品・タカラガイ製品・その他の巻貝製品）、それに時代の異なる土器一〇片などが出土した。また、名蔵貝塚群の延長上（内陸部）の神田貝塚³⁰からも、打製・局部磨製・半磨製・磨製石斧が一六点、すり石、敲き石、石皿一点、杵状石器三点、有孔石器（イカリ石）一点などが出土している。

また、崎枝赤崎貝塚群³¹からは、局部磨製石斧などが五二点、すり石六一点、石錘（有孔石器イカリ石）一点、石包丁一点、石製品一点、貝製品としてシャコガイ製貝斧が二点、スイジガイ製利器八点、イモガイ科の貝製裝飾品が四点。そして、注目すべきことに中国の唐銭貨「開元通寶」（六二二年初鑄）が三三枚と多量に出土した。

北部の船越貝塚³²からも、石斧が二二点、たつき石一点、くぼみ石三点、貝製品としてスイジガイ製利器が一点出土した。柱穴様ピット、焼土遺構も検出されている。また、北海岸の吹通川河口貝塚³³からは、局部磨製石斧、敲石、有孔石器（石錘）などが出土した。

また、東海岸の嘉良嶽貝塚群³⁴からは打製・局部磨製石斧が六点、敲石、石皿、貝製品としてヤコウガイの螺蓋製敲打器などが出土した。また、筆者が採集した薄手の銭貨「開元通寶」などが報告されている。

波照間島の大泊浜貝塚³⁵から局部磨製石斧が六点、敲石、イノシシの腓骨を利用し研磨した骨製品一点、スイジガイ製利器が二点、有孔貝製品（ホラガイ・シレナシジミ）、ヤコウガイ製貝匙、イモガイ科の裝飾品、その他（アンボンクロザメ）が出土した。特に第四層からは、中国製の薄手白磁端反り碗、白磁玉縁碗、褐釉陶器、須恵器（徳之島のカムイヤ

キ系陶器）、滑石製石鍋（長崎県西彼杵半島産）、鉄製品（鉄鑿）などが一点ずつ出土している。また、礫床住居跡や礫敷炉跡、第三層の中心から第四層の上位層まで掘り込んだ穴からは三体の埋葬人骨が検出された。

竹富島のカイジ浜貝塚³⁶の報告書には「新石器時代無土器の貝塚からは主な遺構として掘建柱の建物が三棟、ストーンボイリング一基、地炉二基、局部磨製石斧が二点、叩き石（敲石）二点、鉄釘（船釘）一点、土器が無い。また中世の集落、掘建柱の建物一棟、地炉三基、列状遺構一基、主な遺物として鉄器、土器、白磁、青磁、須恵器（徳之島のカムイヤキ系陶器）、褐釉陶器、羽口、磨石、土製品、貝製品。貝塚と集落の包含層が重なって堆積する複合遺跡」と、記載されている。

宮古島の長間底遺跡³⁷からは、石垣島で産出する緑色片岩を利用した局部磨製・磨製の石斧が九点、磨石二点、敲石三点、シャコガイ製貝斧が一三点（ちようつがい部利用型の貝斧九点・肋部を利用した貝斧一点・種不明の貝斧一点・貝斧類似の貝殻片二点）、二枚貝の楕円形貝製品、ホラガイ腹面有孔製品、シャコガイ有孔製品、スイジガイ付刃突起製品（スイジガイ製利器）四点、骨製品としてイノシシの牙を加工したもの一点、イノシシの四肢骨を利用した骨製錐五点が出土している。また、長間底一帯からは宮古の中近世集落で見られる土器や素焼の陶器なども採集された。さらに、「土器の中に赤褐色で厚く、文様をもつ土器が一個あり、八重山の下田原式土器の文化につながるような文化層の発見の可能性も考えられそうである。これまで宮古で出土例のない土器である。



写真1 宮古島の浦底遺跡の遠影

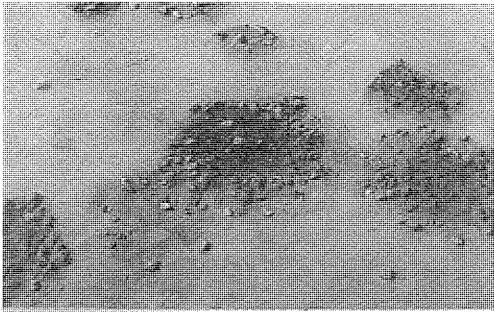


写真2 焼かれたサンゴ小石の山、焼石の跡

(The Urasoko Site-A Sketch of the Excavations in Photographs. Gusukube Town Board of Education, 1990.)

厚さは一・五センチメートルある。外器面は赤褐色を呈し、胎土及び内面は黒色である。硬質であるが、微粒が剥離する。胎土には長石を多く含む。器表面に沈線によるヨコ方向の文様が施されている。沈線は複数である。八重山の下田原式土器と関わりがないかどうか検討する必要がある」と、報告されている。

さて、一九八七―八八年に発掘調査されたのが、宮古島の浦底遺跡である。報告書は出ていないが「The Urasoko Site-A Sketch of the Excavations in Photographs.」(by Gusukube Town Board of Education, 1990)と題する英文概報^(註)が出されている。

浦底遺跡から出土した貝製品

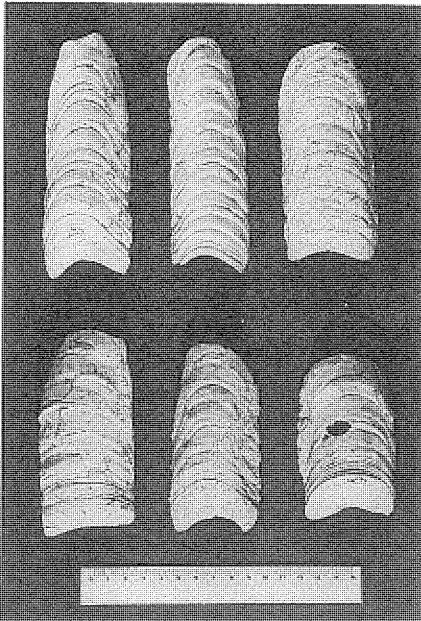


写真4 シャコガイ肋部使用の貝斧

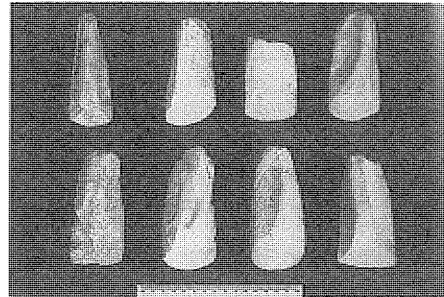


写真3 シャコガイ製貝斧(蝶番部分を使用)

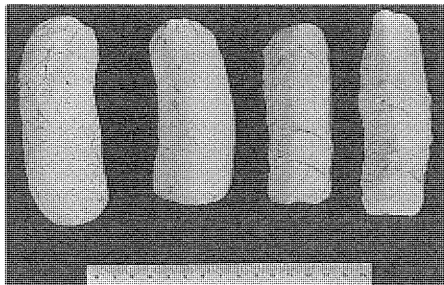


写真5 シャコガイ肋部使用の貝斧

(The Urasoko Site-A Sketch of the Excavations in Photographs. Gusukube Town Board of Education, 1990.)

宮古島の浦底遺跡出土の貝製品、骨製品、石製品

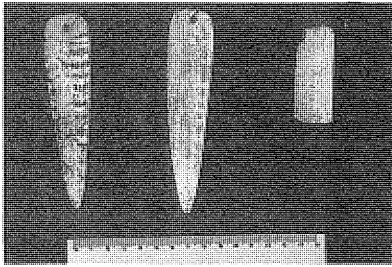


写真6 貝製品

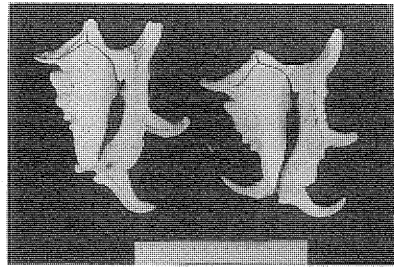


写真7 スイジガイ製利器 ツノの一本の先端を磨いて刃部をつくり出している。スイジガイ製利器は沖縄本島にもみられる。

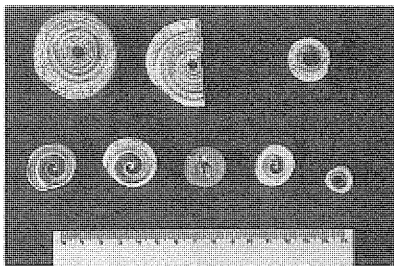


写真8 貝製有孔皿、巻貝の貝頂部を切って作成されている。有孔皿と貝斧のセットは、浦底遺跡、石垣島の崎枝赤崎貝塚、さらに、フィリピン、パラワン島のドゥヨン洞穴でも見られる。

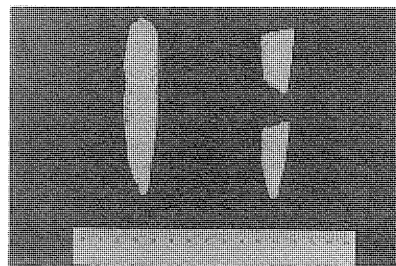


写真9 骨製品

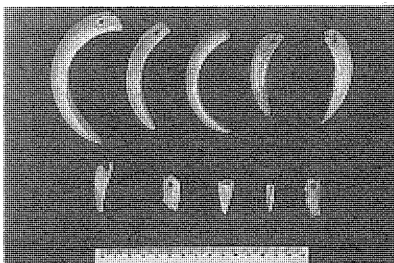


写真10 牙製腕輪、骨針

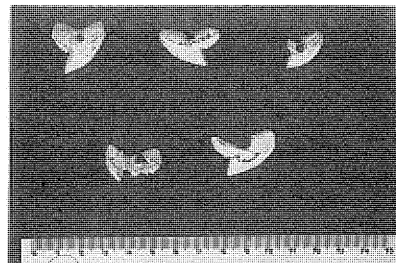


写真11 有孔のサメの歯

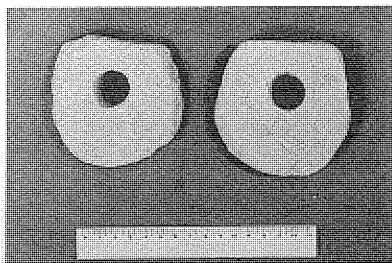


写真12 サンゴ製品 これらは重なり合って出土した。用途不明。

形は卑南遺跡出土のうで輪に類似している。卑南遺跡では完成品、未製品をふくめ、多くの石製うで輪が出土している。

(The Urasoko Site-A Sketch of the Excavations in Photographs. Gusukube Town Board of Education, 1990.)

特筆されるのは、「①ノミ型の石斧が一点出土したこと。宮古にない石で作られていて、石垣島から持ち込まれた可能性が高い。②地炉に使われた焼けた石灰岩礫を数多く出土した。③イノシシの牙やサメの歯に穿孔したものでや鯨骨製の錯の先の破片と思われるものが数点ずつ発見されている。④二〇〇点以上のシャコガイ製のノミ状貝斧が発見された。それらは幾つかのタイプに分類されるがそれらのほとんどはちょうつがいを利用したものである。⑤その他、全面を研磨した小型のノミ型貝斧がある。それらのほとんどはノミ状の石斧のように仕上げられている。また、シャコ貝の肋部分を使った一種のノミ状貝斧がある。しかしながら、ミクロネシアに共通にみられるような薄い縁端部を使った例は見られない。⑥マガキガイ製の螺旋部を横に裁断して中心に穿孔した貝製の円盤が出土している。同様のものがパラワン島のドゥヨン洞穴でシャコガイ製貝斧とセットで出土したことは興味深い」と、報告されていることである。

これらの無土器時代の遺跡は、海岸低地の砂丘に立地しているために砂の採取によりほとんどが消滅しようとしている。同様に石垣島の名蔵貝塚群・富崎貝塚・轟川川尻貝塚・嘉良嶽貝塚群・通路河口貝塚・ジバ川河口貝塚・ヤマターラカラ貝塚・仲筋ビュチイタ川河口貝塚・川平大兼久貝塚・川平ザンドウ原貝塚・川平底地原貝塚、西表島の塩田貝塚・上原貝塚・中野西崎貝塚などが消滅寸前である。

包含層の厚い貝塚には、石垣島の神田貝塚・フーネ第二貝塚・ジバ川河口貝塚や西表島の仲間第一貝塚・船浦貝塚・上原貝塚、波照間島の

大泊浜貝塚、小浜島のウリング貝塚などがある。また、広い範囲に渡って地点貝塚を形成しているのが石垣島の名蔵貝塚群・崎枝赤崎貝塚群・嘉良嶽貝塚群、西表島の南風見貝塚群などである。石斧に関しては、出土量の多い西表島の仲間第一貝塚^⑧・船浦貝塚^⑨・上原貝塚・鹿川ウブド浜遺跡、小浜島のウリング貝塚^⑩、石垣島の名蔵貝塚群・崎枝赤崎貝塚群などに對して、出土が極端に少ない竹富島のカイジ浜貝塚^⑪などがあり、石斧の出土量や共伴遺物などに著しい違いが見られる。

西表島の鹿川ウブド浜遺跡^⑫は海岸に立地していて、そこから、石斧を研磨するのに使用した両面の中央がくぼんだ大型の砂岩製砥石、石槌、緑色片岩などの石材の破片、それらに混じって打製のもの、大小の完形品や未完成品石斧、再使用された石斧などが採集された。また、同様に

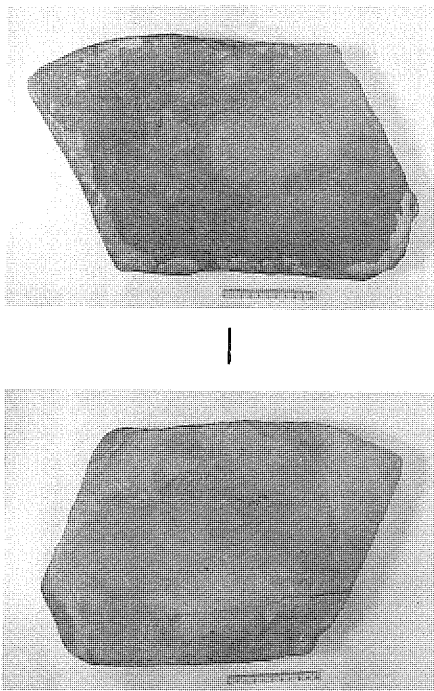
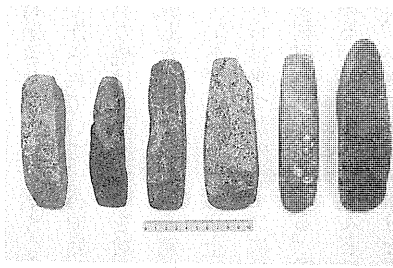
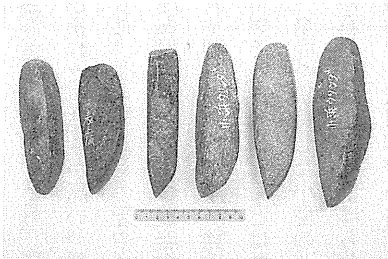


写真13 仲間第一貝塚採集の砥石（表・裏）



(正面)



(側面)

写真14 各遺跡採集の柱状ノミ型磨製石斧

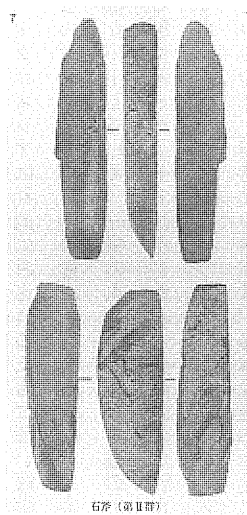


写真15 崎枝赤崎貝塚出土の石斧
(柱状ノミ型磨製石斧)

(石垣市教育委員会『崎枝赤崎貝塚』1987年、注16より)

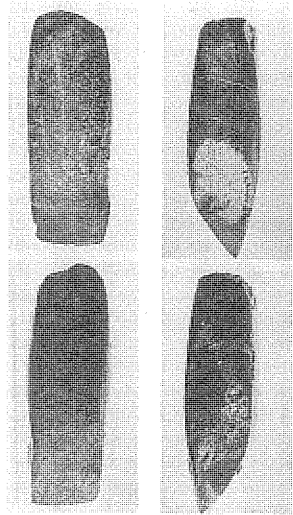


写真16 船越貝塚出土の磨製柱状片刃石斧
(柱状ノミ型磨製石斧)

(沖縄県教育委員会『ナガタ原貝塚・船越貝塚』1979年、注13より)

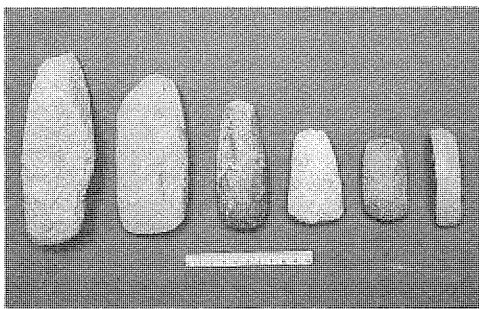


写真17 各遺跡採集の両端刃磨製石斧



写真18 各遺跡採集の小型磨製石斧・ミニチュア石器

東部の仲間第一貝塚付近の船着き場からも大小の石斧やシャコガイ製貝斧などと、両面がくぼんで研磨痕跡のある砂岩製の砥石が採集された。柱状ノミ型磨製石斧が西表島の船浦貝塚⁴⁵、石垣島の船越貝塚⁴⁶や崎枝赤崎貝塚⁴⁷から出土している。これらの柱状ノミ型磨製石斧は、木工用具であった可能性が高い。西表島の仲間第一貝塚や上原貝塚、石垣島の吹通川河口貝塚や名蔵貝塚群、小浜島のウリンド貝塚からも採集されている。無土器時代の貝塚から出土する代表的な石斧である。

両端刃磨製石斧が石垣島の崎枝赤崎貝塚⁴⁸から一点出土した。筆者も西表島の仲間第一貝塚で二点、小浜島のウリンド貝塚から二点、石垣島の仲筋ビューチイタ川河口貝塚でも一点採集した。

また、五・五cm以内の小型磨製石斧が西表島仲間第一貝塚、小浜島ウ

船のイカリに使用されたと思われる大型の石錘（有孔石製品）が石垣島の名蔵貝塚群・神田貝塚・崎枝赤崎貝塚群・吹通川河口貝塚、西表島の仲間第一貝塚などから発見されている。
 シャコガイ製貝斧についてみると、貝斧が六く七点以上発見された石垣島の崎枝赤崎貝塚群・名蔵貝塚群、西表島の中野西崎貝塚、宮古島の

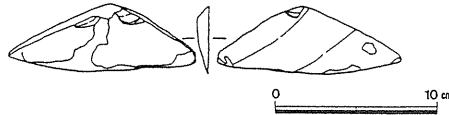


図1 崎枝赤崎貝塚出土の石包丁



写真19 崎枝赤崎貝塚出土の石包丁
 (石垣市教育委員会『崎枝赤崎貝塚』1987年、注16より)

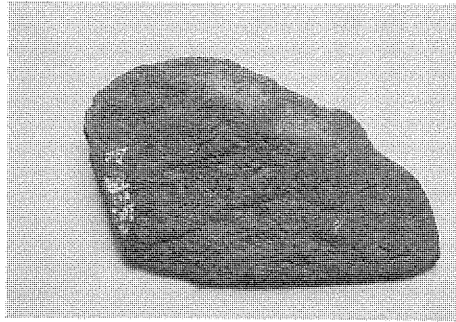


写真20 吹通川河口貝塚採集の石包丁

リンダ貝塚、石垣島名蔵貝塚群から筆者によって採集されている。さらに、三・五cmのミニチュア石器を吹通川河口貝塚から三点採集した。
 現在、石包丁が発掘調査によって石垣島の崎枝赤崎貝塚群や仲間第一貝塚、吹通川河口貝塚から一点ずつ出土している。筆者も吹通川河口貝塚から一点採集した。

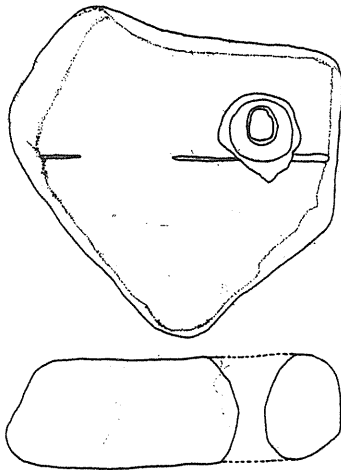


図2 崎枝赤崎貝塚出土の大型の石錘

(石垣市教育委員会『崎枝赤崎貝塚』1987年、注16より)

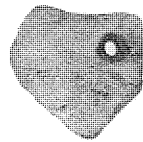


写真21 石錘

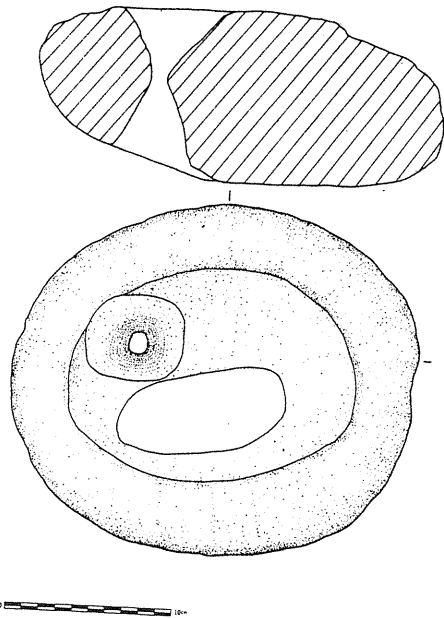


図3 神田貝塚出土の有孔石器（石錘）

(沖縄県教育委員会『石垣島県道改良工事に伴う発掘調査報告—神田貝塚』1980年、注11より)

浦底遺跡⁵⁷や長間底遺跡⁵⁸などに対して、一〜二点しか発見されない石垣島の嘉良嶽貝塚群・ヤマターラカーラ貝塚（未完製品）・吹通川河口貝塚・大兼久貝塚、西表島の仲間第一貝塚・南風見貝塚群（未完製品）・上原貝塚・上原部落内遺跡⁵⁹、小浜島のニシンダ貝塚などがある。遺跡間でもかなりの違いがあるようである。石垣島の名蔵貝塚群からはシャコガイ製貝斧がたくさん（七〇点以上）発見されていて、地点の貝塚を形成している。シャコガイ製貝斧は砂台地の東側はずれのゆるやかな斜面の二カ所の腐植土層や海砂利層の地点からまともに採集されている。また、隣接した数カ所の地点から石斧がまともに採集されることからカヌーを造る場所だったとする説もある。他の遺跡にも類例があるのかどうか

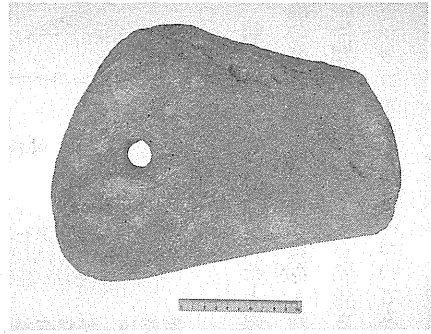


写真22 名蔵貝塚群採集のイカリ石

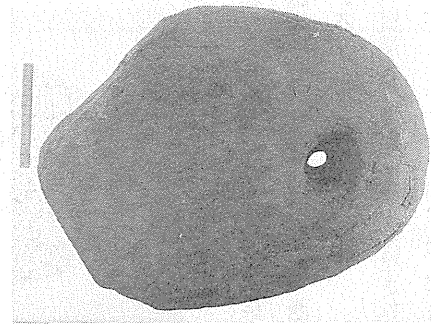


写真23 仲間第一貝塚採集のイカリ石

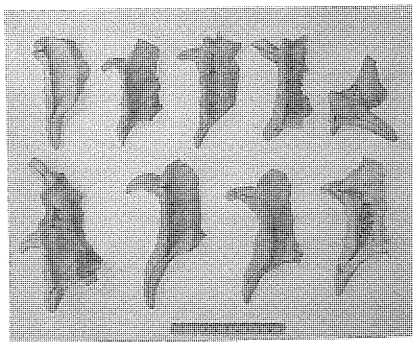
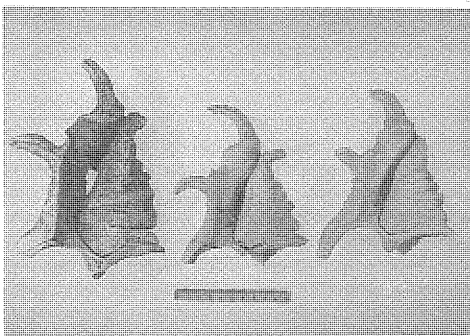


写真24 名蔵貝塚群採集のスিজガイ製利器

今後の研究をまちたい。
スিজガイ製利器⁶⁰はスিজガイの突起の先端をノミ状、または刃状に研磨したもので、沖縄本島の先史時代の遺跡からも発見されている。その分布は、スিজガイの棲息地域と密接な関係がある。二〇点以上発見される名蔵貝塚群と一〜二点しか発見されない石垣島の船越貝塚⁶¹・吹通川河口貝塚・仲筋・ニューチタ川河口貝塚・川平ザンドウ原貝塚・崎枝赤崎貝塚⁶²、西表島の仲間第一貝塚⁶³・船浦貝塚・上原貝塚・カーダ川河口貝塚・中野貝塚・中野西崎貝塚、小浜島のウリンダ貝塚、波照間島の大泊浜貝塚⁶⁴、宮古島の長間底遺跡⁶⁵などがある。

現在、骨製品は波照間島の大泊浜貝塚⁷⁶のイノシシの腓骨を研磨した骨製品が一点、石垣島のサーカラ河口貝塚採集のジュゴンの肋骨を利用した骨製刀器が一点、宮古島の長間底遺跡⁷⁴から猪牙製品、骨製錐四点、浦底遺跡⁷⁵から有孔のサメ歯製品⁸²が出土したのみで、骨製品の出土は八重山二カ所、宮古二カ所と非常に少ない。

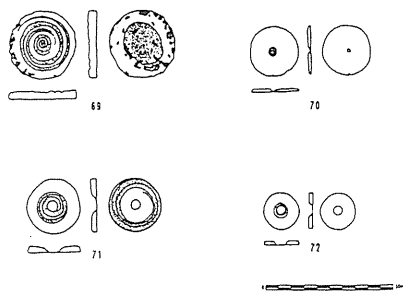


図4 崎枝赤崎貝塚出土のイモガイ製装飾品

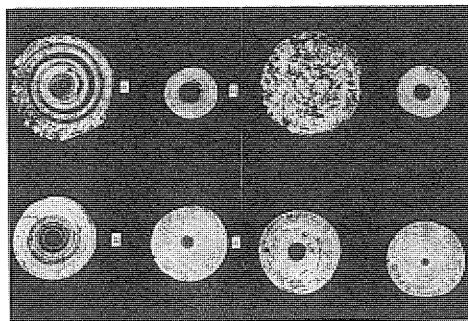


写真25 崎枝赤崎貝塚出土のイモガイ製装飾品
(石垣市教育委員会『崎枝赤崎貝塚』1987年、注16より)

イモガイ科の装飾品は、先島の無土器時代やスク時代の遺跡からも発見されている。西表島の船浦貝塚⁷⁷、石垣島崎枝赤崎貝塚群⁷⁸、波照間島大泊浜貝塚⁷⁹、宮古島の浦底遺跡⁷⁵からも出土している。また、西表島の上原貝塚や石垣島の名蔵貝塚群・嘉良嶽貝塚群・吹通川河口貝塚からも一点ずつ採集されている。類似の貝製装飾品はフィリピンの先史時代のパラワン島ドゥヨン洞穴⁷¹、韓国慶州芬皇寺石塔⁷²からも出土している。

七世紀から九世紀後半頃の遺跡の年代を示す資料で中国の唐代の銅銭「開元通寶」(六二一年初鑄)が、石垣島の崎枝赤崎貝塚群の包含層⁷⁶から三三枚が一括して出土した。筆者も、吹通川河口貝塚⁷⁷から厚手銭貨「開元通寶」を一枚、さらに薄手「開元通寶」を嘉良嶽貝塚群⁷⁸から一枚採集した。西表島仲間第一貝塚からは金武正紀氏⁷⁹が唐の武宗の八四五年(會昌五)に補鑄した開元通寶で背面に鑄造地名の江南道福州(現在地は福建省福州)の背文字「福」一字を入れた紀地銭とか会昌開元銭と称しているのを一枚採集している。そこからは、また、新田重清氏⁸¹、そして筆者も各々一枚ずつ採集している。

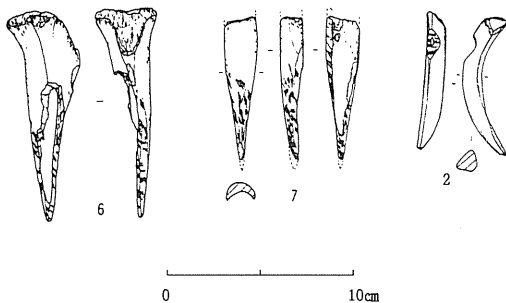


図5 長間底遺跡出土の猪牙製品、骨錐

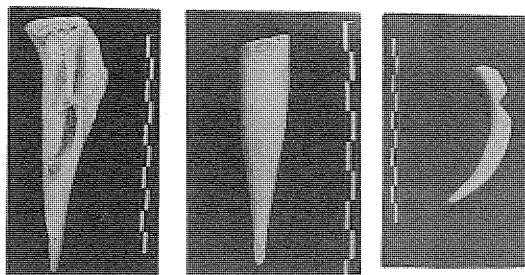


写真26 長間底遺跡出土の猪牙製品、骨錐
(沖縄県教育委員会『長間底遺跡』1984年、注24より)

表2 崎枝赤崎貝塚出土の開元通寶

插图番号	出土層位	年代	初鑄造(西暦)	直径(cm)	文字の書体	観察事項
第40図						
1	K-6、第II層 直上	唐	713	2.5	隸書	完形品
2	"	"	"	2.4	"	"
3	"	"	"	2.4	"	「宝」の部分がサビにより不明瞭、完形品
4	"	"	"	2.45	"	完形品
5	"	"	"	2.4	"	"
6	"	"	"	2.5	"	文字鮮明、完形品
7	"	"	"	2.5	"	完形品
8	"	"	"	2.5	"	「通」「宝」の文字が不明瞭、完形品
9	"	"	"	2.5	"	完形品
10	"	"	"	2.5	"	"
11	"	"	"	2.4	"	"
12	"	"	"	2.5	"	全面的な腐蝕により文字が不明瞭、完形品
13	"	"	"	2.4	"	完形品
14	"	"	"	2.5	"	"
15	"	"	"	2.4	"	"
16	"	"	"	2.5	"	"
17	"	"	"	2.5	"	文字鮮明、完形品
18	"	"	"	2.45	"	完形品
19	"	"	"	2.5	"	完形品
20	"	"	"	2.5	"	錆により文字が不明瞭、完形品
21	"	"	"	2.5	"	「通」「宝」が不明瞭
22	"	"	"	"	"	「開」「宝」の文字が欠損
23	"	"	"	"	"	「開」「通」の文字が欠損
24	"	"	"	"	"	「元」「通」の文字が欠損
25	"	"	"	"	"	「開」「宝」の文字が欠損
26	"	"	"	"	"	「開」「宝」および「元」の一部の文字が欠損
27	"	"	"	"	"	「元」「通」の文字が欠損、腐蝕により残存文字は不明瞭
28	N-6 第I層 0~10	"	"	2.5	"	完形品、文字鮮明
29	N-8 第I層	"	"	2.5	"	全面的に錆、完形品
30	N-6 第I層 0~10	"	"	2.5	"	完形品
31	K-6 第I層 0~10	"	"	2.5	"	"
32	K-6 第I層 0~10	"	"	2.4	"	"
33	0-7 第I層	"	"	2.5	"	"

(石垣市教育委員会『崎枝赤崎貝塚』1987年、注16より)

開元通寶の出土状況

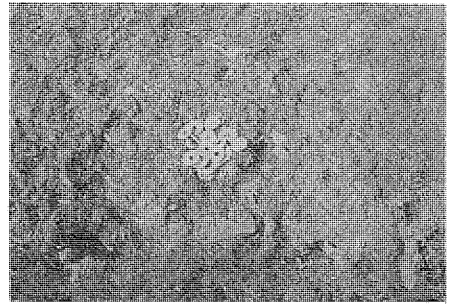
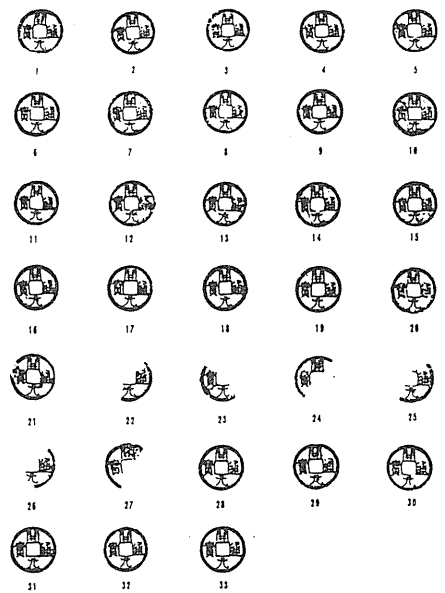


写真27 貨銭：開元通寶（一括遺物）
(石垣市教育委員会『崎枝赤崎貝塚』1987年、注16より)

図6 崎枝赤崎貝塚出土の開元通寶



時代	無土器時代			スク時代
	仲間第一貝塚	嘉良嶽貝塚群	吹通川河口貝塚	名蔵シタダ海底遺跡
直径	2.3 cm	2.4 cm	2.5 cm	2.4 cm
重量	4.0 g	4.2 g	3.6 g	3.2 g

表3 各遺跡採集の開元通寶

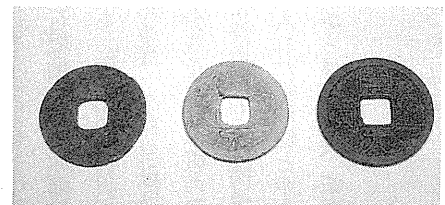


写真28 (左側より仲間第一貝塚、嘉良嶽貝塚群、吹通川河口貝塚採集の開元通寶)